



わかひさ便り

3

2015. 8. 1

わかひさ保育園 園長 井上國康

1

NHK「ダーウィンがきた！」このTV番組を時々見る場合があります。生き物の不思議にいつも感心させられます。生き物たちのしたたかな生存戦略を見ると、はたして人間が一番偉い(賢い)のだろうかという疑問が湧いてきます。今回は動物についての講演のことを書きます。

今年2月19日愛知県犬山市で開かれたシンポジウム「サルに学ぶ、人間の不思議」で子育てについて面白い話が載っていました。

松沢哲郎氏(京都大学霊長類研究所)によると、人間とは何か?を知りたいとき人間でないものに敢えて目を向けることで人間が自ずから見えてくる。生物学上人間はヒト科4属の一つヒト属に過ぎず(他にチンパンジー・ボノボ属、ゴリラ属、オラウタン属)人間をはじめしっぽがないサルをヒト科と分類しているそうです。



寄り添うゴリラの母子

山極寿一氏(京都大学総長)が示唆に富む事を語っています。

「ヒト科4属(オラウタン、ゴリラ、チンパンジー・ボノボ)と人間は98%遺伝子が一緒に人間は彼らと共通の祖先からいろんなものを受け継いでおり由来をたどれば一緒です。私たちは



道具を使ってヤシの種を割るチンパンジーの親子

何を受け継ぎ何を人間独自のものとして発達させてきたかを、理解に苦しむ出来事が日本や世界各地で起きているこの期にもう一度問い直さなくてはいけない。

子育ては本能でできるわけではありません。生後の経験がとても重要です。動物園や研究所の環境下にあるチンパンジーでは

しばしば育児拒否があります

が、野生のチンパンジーでは育児拒否は皆無です。同じ集団のたくさんの仲間に関わり必然的に子育ての経験をするわけです。

サルと違いヒト科類人猿は弱い立場のものが強い立場のものに譲歩を要求する。その譲歩が起きる、それがヒト科類人猿です。

顔と顔を近づけて挨拶をする、仲直りをする、優劣をつけず対等にコミュニケーションをとるなど対面交渉もサルにはないヒト科類人猿共通の特徴です。

ゴリラは優位な相手に媚びることなく互いに対等な態度で接する。相手の目をジッと見つめることが多く、何かのメッセージを伝え相手の表情を読もうとしている。言葉を持った人間が忘れてしまった目のコミュニケーションをきっとゴリラは温存しているのです。

(写真) これくらい顔を近づけて覗き込むことはニホンザルではありえません。ニホンザルなら歯をむき出して威嚇になります。



挨拶するゴリラ



チンパンジーの挨拶



仲直りするゴリラ

ゴリラやチンパンジーにない共感能力を人間は持っています。血縁関係になくとも助け合うことが当たり前だと思っています。それは高い共感能力を持っているから・・・何でこの能力を高める必要があったのか、結論から先に言うとそれは長い子ども期を通じた共同の子育てと、一緒に食物を分け合いながら食べて、お互いの気持ちを通じ合わせたことによって、とも生きる、分かち合いをしながら一緒に生きる能力を高めたためだと思います。

ただ人間社会の家族は崩壊する危機に瀕しています。それはずーっと私たちが信頼を築き上げるために使ってきたフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションの機会が薄れ、別のコミュニケーションが日常化したからです。それはIT化だと思っています。そして個人の評価がどんどん拡大しています。自己実現、自己責任、自分が自分ということが、社会の全面に出てきている。家族という組織がどんどん崩壊して、子育てというものが共同ではなくなり、共食の機会も得られなくなり、個(孤)食が増えました。家族の崩壊は人間性の消失につながると思います。子育てが経済化して、時間を節約できると考えていらっしゃる方が多いと思いますが、じつはそうではなく、子育ては時間がかかるものなんです。子どもが成長にかける時間は今も昔も変わりません。それは省略できるものではないということです。・・・

人間社会の由来を考えていただきたい、生物学的な性質の上に人間の社会が成り立っているのです」(抜粋)

2

突然ですがここで問題です。(7月30日、さくら組さんに質問してみました)

- 1) ①きつね、②らいおん
- 2) ①たぬき、②おおかみ
- 3) ①ゴリラ、②人間

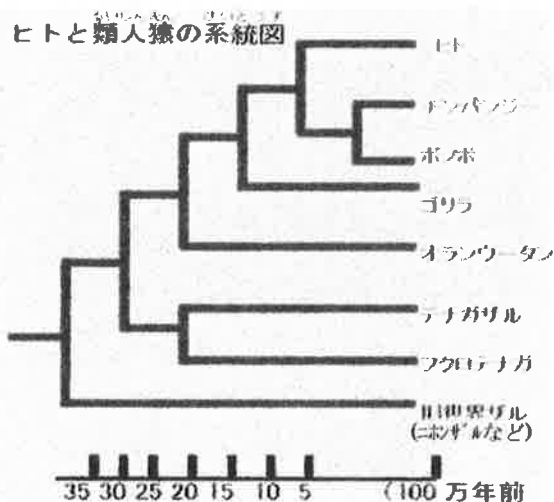
ねこはどちらに近い動物と思いますか。

いぬはどちらに近い動物と思いますか。

チンパンジーはどちらに近い動物と思いますか。

(答えは次ページ)

答えはすべて② 進化系統図のとおりチパンジーは遺伝学上、人間にとっても近いのです。そんなチパンジーを動物園の檻に閉じ込めておくのはせつないですね。



国立科学博物館資料より

中学理科で教える進化の証拠として教科書によく書かれているのが**個体発生における系統発生**の問題です。

ヒトの胎児（個体発生）は母体内で進化の過程をたどることはよく知られています。

途中エラやしっぽが発生する時期があり、この系統発生を経ることで生まれ、その続きである母子密着の大切な授乳期はその仕上げの時期でありこの経験を通してはじめて人間として誕生すると思います。ここに効率化や経済性は入る余地があつては絶対いけない、この続きの時期の大切さを類人猿の子育てが教えているのではないかと山極氏は語って

いると思います。我々の祖先もかつてはゴリラやチパンジーの時期があり、彼らに見る子育てをある意味で昔の人は正しく追体験してきたのであり、大切なこと今も昔も変わりません。

私の前職場で、母乳育児を推奨されている助産婦の方を講師にお招きしたことがあります。強調されていたことは「**人間はまず哺乳動物**なのです、これを忘れて育児の省力化をするからいろんな青少年問題が昨今絶えないことになる」と。

“**3歳まで毎日1億**”これは機械文明の力を使って単純なネジを作ることさえ困難な数字です。人間の脳細胞は3歳頃までにほぼ出来上がる（約8割）とよく言われます。大脳皮質の神経細胞は100～180億これに小脳、脊髄など中枢神経全体を含めると1000～2000億とされています。仮に1250億としその8割は1000億、それを3歳までの（365×3年＝1095）約1000日で割ると**毎日1億の脳神経細胞が作られている**ことになります。子育てを1日でも揺るがせに出来ないことが分かります。（少し乱暴な計算ですが）

「一つの動物が他の動物より高等だとするのは不合理です。共通の祖先から見たら、みんな同じように進化したのであり、進化の仕方がそれぞれ違っているだけなのですから」

チャールズ・ダーウィン 1859年「種の起源」

皆がダーウィンさんのように考えたらいいのですが……

ニホンカワウソはかなり昔絶滅してしまいました。6月にこの紙芝居をさくら組でしました。アホウドリは絶滅してしまったと思われていたのですが小笠原の鳥島でわずかに生き残っているのが分かり、鳥類研究所の懸命の復活事業が先日TV放映されていました。

自然淘汰の結果ならやむを得ませんが、前者は毛皮、後者は羽毛目的の人間の乱獲が原因です。

環境教育を生活科や理科の一部ではなく独立の領域として小学校や幼児期から必修で教える時期に来ていると思います。地球異変も含めてもう待ったなしの状況と言う学者もいます。叫びたい！

「未来ある子ども達のために、いま国会で揉めている議論を止めてこの議論をして下さい！」

次の意見は先日埼玉の自治体で育休中の保育園利用中止に住民が提訴に踏み切ったことに対する読者からの投稿記事です。みなさんはどうお考えですか……。

乳児家庭で育つのが理想的

保育士 早川 さゆり

(愛知県 35)

2015.7.12
親が出産して育児休業に入った場合にそれまで保育園に通っていた0〜2歳児を退園させるとの方針を埼玉県所沢市が打ち出した。批判が起きているが、私は拍手を送りたい。

反対の人は「育休中に、上の子供が保育園に通えれば、その子は思い切り遊べ、余裕を持って下の子を子育てできる」と考えているのかも知れない。だが、親の都合を優先しているとしたか思えない。0〜2歳の子にとって、家庭で過ごすのが理想的だ。私も3人の子を持つ母なので、0

両方共どう子育てに向き合うかをよく考えておられる意見だと思います。

各々の家庭事情で対応が異なるのは当然です。

大切なことはチルドレンファーストではなく大人の都合優先で子育てを考えることになっていないか、子どもは意見を言うことができません。だからこそ子どもの最善の利益を守るためにはその時、そのときでどう対応すべきか、行政も保護者も我々も考えなければいけない、ということだと思います。

0〜2歳の乳児を複数かかえる子育ての肉体的、精神的な大変さは身にしみて分かる。でも、それ以上に、日々成長する子供たちと一日中過ごすことで得る楽しさ、充実感、幸せのほうは何倍も大きい。

私は以前、若いママが「子供は保育園で育ててもらった方がいいの。離乳食もトイレトレーニングも何もやらなくていいんだから」と話すのを聞いてがくぜんとしたことがある。自分の産んだ子供が家庭外で育ち、知らぬ間に成長しているなんて悲しすぎる。母親の意識を子育てを負担と思わないように変えてゆくことも少子化対策の大切な柱だと思う。

育休退園では産めなくなる

無職 野田 三甫子

(愛知県 70)

「育休退園」を決めた埼玉県所沢市の新方針は違法だと母親らが提訴した。その勇気と行動に、声援を送りたい。

私の住む名古屋市では今、育休中も0〜2歳児の継続通園を認めているが、私が次男を出産した当時は育休を取ると3歳に満たない上の子は退園と決まっていた。勤務先では育休を1年間取得できたが、悩んだ末に制度の利用を諦めた。

長男が保育園に慣れていくこともあるし、母親1人では乳児の次男を抱えながら、外遊びが大好きな長男

を十分に外に出してやれなくなるかと考えたからだ。産休直後に職場復帰し、次男の預け先を探すのに苦労した。保育ママに見てもらい、翌年4月に長男と同じ保育園に入ることができた。もし育休が取れていたら、子育てをゆったりとできただろうに、と思う。

市町村によって方針が異なるようだが、「女性が輝く社会の実現」を政府は言っているわけだから、出産後も母親が安心して働き、育児ができる環境を整備することが大事である。育休中も通園できれば、余裕をもって次の子を産む親も増えるであろう。